

100歳の詩人

柴田トヨさんは、6月に100歳になりました。その時の心境は、「もう少しこちらで、がんばります。まだ、連れには来ないでね」というものでした。

トヨさんが息子の健一さんから詩作を勧められたのは、90歳を過ぎてからでした。彼女は、自分の作品が産経新聞の「朝の詩」に入選した時の感動が忘れられず、その感動が今日までの詩作の原動力であり、生きる糧となっているようです。

98歳になった時に、処女作品集を出版しましたが、これが150万部という大ベストセラーになりました。

この詩の魅力は何なのでしょう。一言ではいいかねますが、優しさや清清しさとでもいったら良いでしょうか。あるいは、100年という年月を生きてきた強さ、といった方が良いかもしれませんね。

出来ないからって いじけていてはダメ

私だって 96年間出来なかった事は

山ほどある

(中略)

でも努力はしたのよ 精いっぱい

ねえ それが大事じゃないかしら

さあ 立ちあがって何かをつかむのよ

悔いを残さないために

これは、「あなたへ」という詩の一節です。

振り返れば、20代、30代の頃は、自分の終わりを感せず生きてきました。けれど、今、自分が65歳という年になったからこそ分かります。100歳になって、なお元気なだけでなく、しなやかで、感性豊かに生きられるとい

うことの素晴らしさを。

私をおばあちゃんとよばないで。

今日は何曜日？ 9+9は幾つ？ そんなばかな質問もしないでほしい。

西條八十の詩は好きですか？ 小泉内閣をどう思います？

こんな質問ならうれしいわ。

私は、トヨさんの生き様を見て、サミエル・ウルマンの「青春」という詩を思い出しています。

青春とは人生のある期間を言うのではなく

心の様相を言うのだ。(略)

希望ある限り若く

疑惑と共に老ゆる

恐怖と共に老ゆる

失望と共に老い朽ちる(以下、略)

トヨさんは、今も青春の中に生きているのだと思います。

3・11の東日本大震災の被災者に「心だけは流されないで」という励ましの詩を残しています。

朝はかならず やってくる

朝陽も 射してくる筈よ

私もまた、トヨさんの詩集「くじけないで」に目を通しながら、励まされている自分に気がきます。(塾頭 吉田 洋一)